

まえがき

近年、ビジネスや日常生活のさまざまな場面で、デジタル化が急速に進んでいる。医療現場も例外ではなく、電子カルテやタブレット端末、各種センサー、オンライン診療、人工知能（AI）を活用した診療支援など、多様なデジタル技術が導入されている。看護の現場においても、看護記録や情報共有、患者の見守り、業務管理などにデジタル技術が活用されるようになった。こうした変化の背景にあるのが、デジタルトランスフォーメーション（DX：Digital Transformation）という概念であり、医療職者にとってもはや避けて通れないキーワードとなっている。

ここで重要なのは、DX は単なるデジタル化ではなく、変革や新たな価値の創出を目的としてデジタル技術を活用することであり、看護 DX は、「デジタル技術の活用を通じた看護業務の変革」を目指すものといえる。デジタル技術によって看護業務がどのように変わるのか、それが患者の安全や看護の質にどのような影響を与えるのかについて、一部の専門家や担当者だけではなく、現場の看護師、さらには未来の医療の担い手である看護学生も主体的に考えていくことが、ますます重要になっている。IoT（Internet of Things：モノのインターネット）などの新たなデジタル技術の活用や DX に関する教育はいまだ十分とはいえない。臨床現場に出れば、学ぶ機会はさらに限られてしまう。何よりも、こうした専門的な用語を耳にすると、「難しそう」と敬遠してしまう人が少なくないのではないだろうか。

そこで本書は、① DX の基礎知識、②看護のデジタル化、③看護と DX、④多職種連携と DX、⑤ DX を進めるために知っておくべきこと、の全 5 章で構成し、1 日 1 章のペースで無理なく読み進められるよう、内容を簡潔にまとめた。また、専門的な知識がなくても理解できるように、読みやすくわかりやすい解説に努めた。

本書が医療 DX、看護 DX について考え、日々の看護実践や学びに生かしていくための「はじめの一步」となれば幸いである。

2026 年 7 月

瀬戸 僚馬